

## 2017年の基本方針です！

○私は高校の教師を辞めた1993年から、久留米・筑後地域で任された教室で500人の生徒を集めました。毎年500人を指導しますと、成績に関係なく、合格する生徒と合格しない生徒がハッキリわかるようになりました。今の久留米は、塾が飽和状態ですので、私はその過去の500人の中で「合格する70人」を選抜して受け入れるようにしています。選抜の方法は、今読まれてあるこの文章が読めるかどうかです。どんなに偏差値が高くても、合格する資質が無い生徒には、共感できない内容になっています。逆に、合格する資質がある生徒には、共感できる内容になっています。去年、一昨年も、不登校だった中学生や高校生が見事、学校に登校できるようになったり、受験に成功しました。学力や精神状態がどうであっても、「本当に、本気でなんとかしたい！」と考える子供には最適の場所です！

○久留米自習室は、「自習したい人、集まれ！」という意味で、看板を掲げました。ところが、生徒数が第一自習室だけの40人定員から2015年に第二自習室を作って、70人定員に増えた頃からの事です。「うちの子が、自習できるようにしてください！」という要望が半数になり、自習できる子が35人、自習できない子が35人という状況になりました。40人定員の時は、そのほとんどが「自習できる子」でしたので、気づきませんでした。ここまで増えますと、「自習できない生徒」に対応できるようにしないとイケませんね！

○まず、「質問コース」を廃止とします。そして、現行の「授業コース」で、質問もできるようにします。自習できない生徒さんは、質問できるほどの勉強を普段やっていません。よって、入会して最初の一ヶ月、全く質問しない事があります。「我が子は、自習できない」とわかってある保護者の方は、必ず入会時にその事を伝えていただくと助かります。今年は、自習できるできない、あるいは質問できるできないに関わらず、授業を行います。

○まず、質問がしっかりできている生徒は、授業は免除しても良いかもしれません。今まで通りの質問のみの対応で、できる生徒ですね。次に授業には「60分授業」と「30分授業」があります。週に一回です。授業以外の時間は質問の時間です。自習できる生徒は、週に60分の質問をやっていました。しかし、自習できない生徒は一週間全く質問しません。質問時間が0分です。これは、強制的にでも授業を行い、他の生徒たちとの差をなくして行きます。自習できない生徒さんは、60分授業がオススメです。授業は、先生と生徒とのマンツーマンです。ですから、家庭教師の授業のようになります。30分授業は、一週間に30分以上は別に質問に行ける生徒用です。授業料が60分授業の生徒の半分ぐらいで済みます。質問がしっかりできている生徒であれば、その30分の授業も免除して良いです。

○さて、九州大学などの難関大学を狙っている生徒も、60分授業を受けています。医学部などの超難関受験となりますと、週に4時間以上受けている生徒もいます。医学部狙いの生徒たちが、月謝10万円ぐらいを払われるのは、普通ですね。久留米市の生徒たちの平均月謝が、だいたい福岡市や北九州市の生徒たちの半額ぐらいの感覚なのですが、医学部狙いの生徒たちは、別格ですね。自習できる生徒でも、とことん学力をつける必要がある生徒たちは、授業を受けています。素晴らしい先生たちの授業に、きっと驚かれるでしょう！